科目名	母性看護学方法論Ⅱ	対象学年・時期	２年　後期
講師	専任教員	単位数・時間数	１単位　30時間
講義概要	ディプロマポリシー３、５に基づく。 母性看護学は、女性の生殖と次世代の健全な育成に焦点を当てた看護学である。そのため、将来の妊孕性に影響する月経異常については学生も自己の問題として捉え行動できる必要があり、重要な学習内容である。そして妊産褥期は母体の変化が大きく、看護が重点的に必要とされる。母性看護学方法論Ⅰでは、妊産褥期と新生児期の正常な経過とその看護を学習しており、ここでは、月経異常と不妊症、命をめぐる倫理、妊産褥期の異常とその看護について学習する。また、後半ではこれまで学習した知識を基に、褥婦と新生児をウェルネスの視点でアセスメントし、母性看護学における思考のプロセスを演習で体験的に学習する。		
講義形態	講義、グループワーク		
学習目標	１．月経異常と不妊症について理解できる。 ２．命をめぐる倫理について考えることができる。 ３．周産期におけるハイリスクへの看護について理解できる。 ４．褥婦と新生児の看護に必要な思考プロセスについて理解できる。		
学習内容 (授業計画)	１．月経異常と不妊症 ２．命をめぐる倫理 ３．周産期におけるハイリスクへの看護 １）切迫流早産 ２）多胎 ３）前置胎盤 ４）妊娠高血圧症候群 ５）常位胎盤早期剥離 ６）妊娠糖尿病 ７）生殖補助医療後の妊婦 ８）弛緩出血 ９）産後うつ 10）死産 ４．母性看護の思考プロセス １）母性看護実践を支える概念 ２）事例 　①正常に経過する褥婦と新生児		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　　概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシング・グラフィカ　　母性看護の実践 ナーシング・グラフィカ　　母性看護技術		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	解剖生理学、病気を診る演習、母性看護学概論、母せ看護学方法論Ⅰの女性生殖器や月経周期とホルモン、排卵・受精・着床・受精卵の細胞分裂、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常と看護等の知識を開講前に復習してください。事前学習・事後学習はその都度指示します。		
評価基準と 評価方法	終講試験　50点 課題への取り組み　50点		
備考			